

# JIS

UDC 669.018.9 : 669-419.8 : 620.168.3

H 7407

## 繊維強化金属の圧縮試験方法

JIS H 7407 -1995

(2000 確認)

(2005 確認)

平成 7 年 2 月 1 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

---

主務大臣：通商産業大臣 制定：平成7.2.1

官報公示：平成7.2.1

原案作成協力者：財団法人 大阪科学技術センター附属ニューマテリアルセンター

審議部会：日本工業標準調査会 非鉄金属部会（部会長 福迫 達一）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部材料規格課（〒100 東京都千代田区霞が関1丁目3-1）へ連絡してください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## 繊維強化金属の圧縮試験方法

H 7407-1995

## Test method for compressive properties of fiber reinforced metals

1. 適用範囲 この規格は、長繊維によって強化された金属基複合材料の室温大気中における圧縮試験方法について規定する。

備考 この規格の引用規格を、次に示す。

JIS B 7502 マイクロメータ

JIS B 7507 ノギス

JIS B 7733 圧縮試験機

JIS H 7006 金属基複合材料用語

JIS Z 8401 数値の丸め方

2. 用語の定義 この規格で用いる主な用語の定義は、JIS H 7006によるほか、次による。

- (1) 圧縮応力 圧縮試験中の任意の時点において試験片に加えられた圧縮荷重を、試験片のゲージ部の原断面積で除した値。
- (2) 圧縮強さ 圧縮試験中に試験片に加わる最大圧縮応力。
- (3) 圧縮ひずみ 圧縮荷重によって、試験片の荷重負荷の方向に生じた標点距離の変化量を元の標点距離で除した値。
- (4) 最大圧縮ひずみ 圧縮強さに対応する圧縮ひずみ。
- (5) 圧縮弾性率 圧縮試験中の圧縮応力を圧縮ひずみで除した値。ここでは、次のとおりとする。
  - (a) 圧縮荷重—圧縮ひずみ線図又は圧縮応力—圧縮ひずみ線図において、初期の直線部分の傾きから求めた値。量記号は $E_1$ とする(図1参照)。
  - (b) 圧縮荷重—圧縮ひずみ線図又は圧縮応力—圧縮ひずみ線図において、ひずみ量0.5 %で接線を引き、その傾きから求めた値。量記号は $E_2$ とする(図1参照)。

図1 圧縮応力—圧縮ひずみ線図の例

